

第1回 介護・医療連携推進会議 議事録

ステップこはま24hケアステーション

開催日時：令和8年7月23日（木）14時～15時

開催場所：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 会議室

出席者：（宝塚市医師会）合田様（小浜自治会長）吉村様

（4地区民生児童委員）岡田様（宝塚市介護保険課）昇様

（地域包括支援センター）山岡様

（訪問看護ステーションかいな）藤原様、北様

（訪問看護ステーション雅）合楽様

（訪問看護ステーションスイッチオン宝塚）二瓶様

（ステップこはま訪問看護ステーション）廣木様、高尾様

（事業所出席者）吉川、長谷川、勝山

欠席者：（家族）

議題内容

1、事業報告(R8.2～R8.6)

利用者：平均 23名／月 7月 26名（前回より3.2名増）

平均年齢：87.4歳（男：87.9歳、女：80.5歳）男性の平均年齢高い

平均介護度：2.9（全国平均：2.8）前回より0.3減で全国平均に近づく

介護度1、2の方が増えており、内服の確認や夏場などはエアコンの確認などの室温管理での訪問が増えている。

家族構成：①独居—約58%、②昼間独居—約0%、③高齢者夫婦世帯—約27%

④家族と同居—15%

利用形態：4名がヘルパーのみの利用で、大半が訪問看護サービスを利用（連携型・医療保険）。

連携型の訪問看護ステーションは4ステーション。

新規：18名

終了：看取り11名、施設入所0名、入院1名、既存サービスに移行3名

訪問件数：1,111件/月 随時訪問：27件/月

随時対応：内容 排便の訴え、転倒、不安からの電話対応が主。

活動地域：3・4地区に集中

収 入：平均約470万/月。前回と変わらず。

2、自己評価・外部評価の報告 添付資料参照下さい。

I-(1)-1 今年度よりスローガンを決め、達成に向けて毎月目標をスタッフで決め、取り組んでいます。スローガン「家で暮らしたいを叶える」今月取り組み目標「笑顔で訪問」

II-1-(1)-1 終末期の利用者は状態の変化が特に大きくケア内容の調整を都度行っている。水分や食事がとれず、排泄介助が不要になった状態でも訪問回数を減らすことはなく、快につながるケア、足浴や手浴、清拭やホットパックなども取り入れています。

Ⅱ・1・(1)・13 手に力が入りにくくなる、起き上がるのがしんどくなった方でも自分で飲みたいときに水分がとれるようにコップの置き場所の調整やひと口サイズにした食事などの準備を行うなど工夫して、できる能力が活用できるよう自立につなげています。

Ⅱ・1・(2)・15 高齢夫婦世帯では、今まで介護していたができなくなっていることもあるので、都度ケア内容などを提案、調整しています。デイサービスを休まれた場合はヘルパーが随時訪問して必要なケアを行っています。

Ⅱ・2・(2)・27 認知症の方の徘徊に関しては地域住民からの通報を受けて駆け付ける対応をしています。

Ⅱ・3・(1)・29 定期巡回を利用したことがないケアマネジャーもまだまだ多くおられるため、6月に3地区～6地区の居宅介護支援事業所向けに勉強会を開催しました。19事業所、34名の参加があり普及活動につながったと実感しています。

Ⅱ・3・(1)・32 4月に市内5事業所(1事業所欠席)で困難ケースの事例検討や情報共有を行っている。4月時点では空きが多い事業所も多く、平均介護度が下がっていることや相次ぐ看取りなどの対応で収入が不安定で運営が厳しいと話もあり。

○外部評価についてのご意見、ご感想

ご意見なし

3、事故、ヒヤリハット報告について

今回報告事項なし

4、事例報告～認知症の方の関わり～

添付資料参照

5、その他 ご質問等

山岡様→民生委員から連絡は入るが、要支援の担当でヘルパーの訪問回数も少ないため、事例のようなケースは無い。

合楽様→警察対応を2名したことがある。

1名は夫婦で住まれていたが奥様が入院され、病院に行かれると徘徊され警察に保護される。家での引き受けとなったが、その後も徘徊続き施設へ入所となった。

もう1名の方は近所の方との交流があり、見守りが厚く、近所の方が声をかけて下さり自宅に戻られていた。

家族は中々来れず、警察への保護もあり、自宅での引き受けとなった。

警察の方は何度も保護されており、自宅もわかってくださっていて協力的だった。

認知症が重度、地域の方の見守りがすごいと改めて感じたケースだった。

吉村様→冬場に窓を閉め忘れており、そのまま眠ってしまっていた。
室温が低くなっており、すぐに窓を閉め対応した。
認知があり、家に帰る場所がわからなくなることもあった。

二瓶様→看護師、ヘルパー、デイ等、毎日誰かが訪問してくださっている方ですが、誰も訪問の無い夜中に大雨の中、一人で出かけられていた。
朝看護師の訪問時に不在確認し警察へ通報し捜索され、自宅の近くの排水溝で発見され、すでにご逝去されていた。
夜中の見守りでの訪問などを検討するなど何か対策はあったのではないかと悔やまれるケースだった。

吉村様→歩行ができるができる方で認知がある方、いつもは家の周辺を歩いておられるが、その日は遠くまで歩かれており、転倒し通りかかった方が救急車を要請してくださり搬送された。骨折をされていた。

岡田様→自宅で過ごしていると、庭にはだしで歩いている方がおり、警察へ通報した。
仕事で徘徊の話など聞いていたが、いざその場に出くわすとどうしていいのか分からなくなるなど感じた。

吉川→高齢者の行方不明者が増えていますが、宝塚市はどうでしょうか？何か情報があつたりされますか？

昇様→すみません、把握できていません。

藤原様→事例の利用者様に介入しており、本当にヘルパーさんには感謝している。色々な対処方法がヘルパーさんから案をいただき、日々対応できていると感じています。

まとめ

各事業所との連携をしっかりとしていき、情報共有していくことで認知症の方が地域で生活できるようにしていきたい。

次回開催予定日

令和 9 年 2 月 25 日（木） 14 時～15 時半